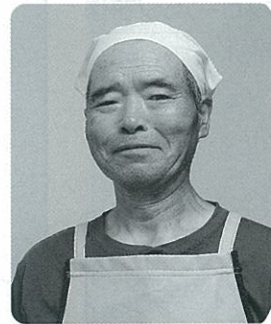




コーヒーを飲みながらの世間話に華が咲く「サロンおらげ」。利用者や地域住民の笑い声が響きます。



料理教室に参加した唯木秀雄さん。ライフ吉井田の利用者の皆さんと一緒に腕をふるっていました。

ライフ吉井田の地域密着を目指したもうひとつの取り組みが、利用者の方と地域の老人会、婦人会、絵手紙教室のメンバーなどボランティアの方々と一緒に料理教室です。地域ぐるみで楽しい思い出を作ろうという思いから、毎月1回開催されています。この日は約25人が参加。「高齢者向けの簡単に作れるおかず」をテーマに、ミキサーにかけた豆腐とはんぺんに長芋を混ぜ、シソをのせて焼いた「ふわふわ焼き」、キュウリやナスなど夏野菜を使ったあえもの、郷土料理の「枝豆汁」など、夏バテ対策に最適な料理を作りました。食材は利用者の皆さんや森さんが畑で育てた野菜、地域の方が持ち寄った

みんながワクワク料理教室 ネットワークにも発展

ける「おらげ」の役割について教えてくださいました。まるでもうひとつの「自分の家」のような開放感と安心感に溢れていることが、「おらげ」を利用したいと思う秘密のようです。



ケアマネジャーの佐藤麻美さん。「利用者の皆さんはビックリするくらい上手に野菜を切ってくれるんですよ」。

力強く話してくれました。またライフ吉井田が開設する際に町内会長として関わり、現在はご家族が事業所を利用しているという唯木秀雄さんは、料理教室常連の一人。「事業所と地域につながりがあるのは、両者にとつて良いことです。男性の参加者が少ないのもひとつ仲間が増えると嬉しいですね」と唯木さん。月に2回、利用者に絵手紙の描き方を教えている本田登美枝さんは、「料理教室や夏祭りといった事業所独自の活動で、地域と事業所の良い関係が築けていると思います。でも、同じ地域に住んでいても、どんな事業所か知らない方も少なくありません。言葉で説明するよりもここに連れてきて、一人でも多くの方と交流の輪を広げたいです」と



「地域住民の一人として、自分が元気なうちはライフ吉井田さんに協力したい」と本田登美枝さん。

利用しやすい事業所づくり そこから生まれるつながり

フ吉井田のケアマネジャー・佐藤麻美さんは「このような活動で地域の方と顔なじみになり、ネットワークづくりにもなっています」と笑顔。地域と事業所のぎすぎすが、確実に結ばれています。

これからの時代、ますます介護を必要とする高齢者が増えていくなかで、森さんは今後のライフ吉井田を見えます。「高齢者が望むことは、やはり住み慣れた家で安心して暮らしたいということです。そのために必要な支援をすること、そしてご家族が安心して何でも相談できる場であることが私たちの使命です。初めは相談しにくいと感じてしまう事業所の垣根を低くするためのきっかけづくりが「サロンおらげ」や「料理教室」であって、そのような交流の場を設けることで相談しやすい雰囲気生まれます。地域住民同士がなじみの関係を築くことができれば、何かあったときには助け合う関係も生まれます。人と人を結び、地域の皆さんにあつて良かったと思っていたような、地域密着の関係をさらに築いていきたいです。ライフ吉井田から一歩ずつ利用者と家族を見守る優しい地域づくりが広がっています。

地域に開かれた事業所から広がる人と人の輪

～「あつて良かった」と思われる、地域密着型サービスを目指して～



地域の人々に気軽に立ち寄ってもらい、笑顔があふれるコミュニケーションの場にしたいとの思いからライフ吉井田に併設されている「サロンおらげ」。コーヒーやお茶は無料で、誰もが利用できる交流の場になっています。

みんなで育てる地域福祉



取材協力

小規模多機能型居宅介護事業所
ライフ吉井田
(社会福祉法人ライフ・タイム・福島)

〒960-8165

福島市吉倉字谷地36-1

TEL(024)563-6145

「サロンおらげ」で利用者と地域のふれあいを

小規模多機能型居宅介護事業所とは、介護が必要となった高齢者が住み慣れた自宅や地域で在宅生活を継続することができるよう、「通い」を中心として、利用者の状態や希望・必要性などに応じて「泊まり」や「訪問」を組み合わせたことができる介護サービスを24時間365日、提供する施設です。平成19年8月に開設したライフ吉井田は、利用者にサービスを提供しながら地域に開かれた事業所を目指しています。



「サロンおらげを一週間で100人以上の方が利用しています」と所長の森重勝さん。

「ライフ吉井田が地域の役に立つものであることはもちろん、私たち職員も地域に貢献することが大切だと考えています。そついつた思いから、誰もが



「サロンおらげ」のウッドデッキ。天気の良い日はひなたぼっこをしながらのんびり過ごせます。

出入り自由で、地域の方同士、また地域の方と利用者が交流を図ることができると「おらげ」を設けましたと話してくれたのは所長の森重勝さん。「おらげ」では、囲碁を楽しむ男性や、教科書を広げて勉強する小学生など、何をしても自由。年代を問わない自由な空間として活用されています。「利用者と遊びに来た子どもさんが一緒にゲームをしたり、歌を歌ったり…。地域の人々とふれあうことで利用者の表情が明るくなります。その交流の輪の中に私たち職員が入っていく、より地域に根付いた事業所をつくっていくれば」と森さんは地域にお

ライフ吉井田は小規模多機能型居宅介護事業所として利用者に対するサービスを行うことはもちろん、喫茶を楽しむことができるサロンの開放、料理教室、夏祭りの開催などを通して、地域に開かれた事業所を目指しています。子どもから大人までが「自分の家」のように気軽に立ち寄ることができるライフ吉井田は、身近な存在として地域に溶け込んでいます。